

逸翁美術館 編

与謝野晶子と 小林一三

阪急東宝グループを興し、明治・大正・昭和の実業界で活躍した小林一三（1873～1957）。数寄者としても知られ、文化の大庇護者であった。

与謝野晶子（1878～1942）もまた、小林一三がその才を見込み、支援した作家である。

本書は、晶子が一三に贈った「源氏物語礼讃歌」短冊全54枚（カラー）、これを詠むきっかけになった、上田秋成筆「源氏物語短冊貼交屏風」（カラー）をはじめ、その由来を記した手紙や、交流を物語る資料116点を収録した、逸翁美術館特別展覧会の展示図録。

第I章 歌百首屏風

—晶子と一三、交流の先駆け—

第II章 大正六年の晶子

—六甲山苦楽園での「歌行脚」と宝塚—

第III章 晶子「源氏物語礼讃歌」の展開

第IV章 晶子の詠歌活動

第V章 晶子の新出書簡

第VI章 書簡で見る

寛・晶子夫妻と一三の交流
—併・一三と

小林政治（天眼）の交流—

論考 与謝野晶子と小林一三

（伊井春樹）

A4判・94頁（カラー36頁）
定価 1,050円（税込）
ISBN978-4-7842-1567-6



二書同時刊行!!

2011年4月刊

伊井春樹（逸翁美術館館長）著

与謝野晶子の 「源氏物語礼讃歌」

小林一三による与謝野家への物心両面での庇護下、「源氏物語礼讃歌」が詠まれた背景、いつ秋成の短冊屏風を目にしたのか、さらには晶子自身においても、代表作としての認識がどのように醸成されていったのか、逸翁美術館特別展覧会のテーマをより深く追い求めた一書。

① 晶子の大阪行き

晶子の歌行脚／九州への揮毫の旅

② 関西、九州への旅の成果

過酷な歌行脚／九枚の懐紙

③ 歌人仲間河野鉄南

鉄南との交友／鉄南から鉄幹へ

④ 晶子の歌行脚

天眼の与謝野家への後援／宝塚少女歌劇／『泉の壺』の詠作

⑤ 『源氏物語講義』の執筆

天眼の依頼による『源氏物語』

の原稿／関東大震災による悲劇

⑥ 鉄幹の欧州遊学 百首屏風による資金調達／小林一三への依頼

鉄幹の衆議院選挙立候補／帰京後の晶子

⑦ 「源氏物語礼讃歌」の短冊

小林一三のコレクション／秋成の「詠源氏物語和歌」／「源氏物語礼讃歌」短冊／「源氏物語礼讃歌」の広がり

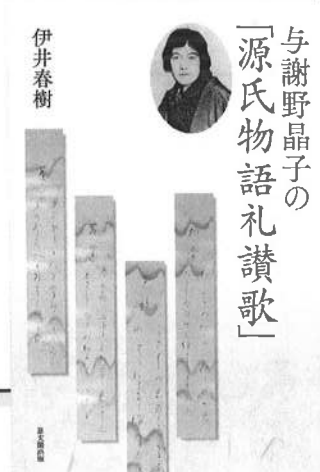
⑧ 「源氏物語礼讃歌」の短冊

小林一三のコレクション／秋成の「詠源氏物語和歌」／「源氏物語礼讃歌」短冊／「源氏物語礼讃歌」の広がり

四六判・220頁

定価 1,470円（税込）

ISBN978-4-7842-1568-3



新しい視点で

描く晶子像

思文閣出版

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	与謝野晶子と小林一三	本体1,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1567-6	
	冊	与謝野晶子の「源氏物語礼讃歌」	本体1,400円(税別)	ISBN978-4-7842-1568-3	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい)				
	<input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				
					書店番線印

※晶子と寛の思い出

与謝野光著

与謝野晶子没後50年に際し、明治35年生れの長男が、家庭における寛（鉄幹）と晶子、そして新詩社に集まった多彩な浪漫派歌人たちの思い出を語る。【内容】堺時代の晶子／晶子の上京／君死にたまふことなかれ／渋谷時代／千駄ヶ谷時代／石川啄木と平出修／『スバル』／東紅梅町時代／渡欧／富士見町時代／文化学院／関東大震災 ほか
▶A4判・270頁／定価1,835円 ISBN4-7842-0668-X

源氏物語 千年のかがやき

国文学研究資料館編

新出の国文学研究資料館蔵『源氏物語团扇画帖』全54枚をカラーで掲載し、詳細な解説を付す。あわせて図様が近似する他の源氏絵についても参考資料として多数掲載。描く・書き写す・鑑賞するという3つの観点から、源氏物語が千年間どのように享受されてきたのか、豊富なカラー図版で紹介する。
▶A4判・168頁／定価1,995円 ISBN978-4-7842-1437-2

日本文学の「女性性」

増田裕美子・佐伯順子編

二松学舎大学学術叢書

日本文学の根底にある「女性性」が近代文学ひいては現代の様々な文学作品の中に受け継がれ、物語を紡ぎだしている。本書は平成18年度から3年間にわたり、日本文学と女性性の問題を正面から議論した二松学舎大学東アジア学術総合研究所の共同研究プロジェクトの成果9篇。
▶A5判・232頁／定価2,415円 ISBN978-4-7842-1549-2

漱石と世界文学

坂元昌樹・田中雄次・西槇偉・福澤清編

「世界文学において漱石をとらえなおす」という視点のもと、夏目漱石が世界文学を意識し、そこから多大な影響を蒙ったことの検証だけでなく、漱石がその後の日本文学を含め世界文学に与えたインパクトや、世界で漱石文学が翻訳のかたちでいかに受容されたのかなども見極める9篇。熊本大学の教員を中心とした共同研究の成果。
▶A6判・260頁／定価2,940円 ISBN978-4-7842-1460-0

※谷崎潤一郎と世紀末

松村昌家編

大手前大学比較文化研究叢書1

大手前大学で行われた第62回日本比較文学学会全国大会のシンポジウムをもとに、海外における谷崎評価も踏まえ、比較文学的見地から谷崎の文学に迫る。さらに、谷崎が世紀末的デカダンスの洗礼を受けたとされるノルダウの「世紀末」とクラフト＝エービングの「マゾヒズム」の翻訳を収録。
▶A5判・212頁／定価2,940円 ISBN4-7842-1104-7

一九二〇年代東アジアの文化交流

川本皓嗣・上垣外憲一編

大手前大学比較文化研究叢書6

1920年代日本はいわゆる大正デモクラシーの時代であり、経済の好景気と比較的安定した国際関係によって、海外との交流が新たな展開を見せた時代であった。明治期の交流にくらべて研究の事例も少なく、未開拓の部分も多い1920年代の東アジア文化交流の様相を、当該各国の研究者を結集することによって、明らかにする8篇。
▶A5判・232頁／定価2,940円 ISBN978-4-7842-1508-9

中国語圏における厨川白村現象

工藤貴正著

隆盛・衰退・回帰と継続

厨川白村の著作が彼の死後、日本では急速に忘れ去られたのに対し、中国語圏（中国、台湾、香港）の知識人たちの間では、今なお知名度が高い。日本での評価を受け、大陸・中国の民国文壇の知識人による受容の様相、翻訳された厨川文体の特徴とは如何なるものだったのか、基本的資料を示しながら考察。厨川を軸とした日中台の文学交流史。
▶A5判・378頁／定価6,300円 ISBN978-4-7842-1495-2

新興俳人の群像 「京大俳句」の光と影

田島和生著

昭和8年、京大関係者の俳句雑誌として発足した「京大俳句」。新興俳句運動の旗頭として注目を浴びたが、日中戦争以来の動きの中で会員が治安維持法違反容疑で検挙、廃刊に追い込まれる。本書は、「京大俳句」の成り立ち、新興俳句と日中戦争など、「京大俳句」の盛衰を軸に、新興俳句運動とその時代背景、俳人たちの動静と作品を紹介。
▶A6判・294頁／定価2,415円 ISBN4-7842-1251-5

茶の湯文化と小林一三

逸翁美術館編

逸翁美術館の特別展「茶人 逸翁 一茶の湯文化と小林一三」図録。阪急電鉄を起し、明治～昭和の実業界で活躍した小林一三。その「近代教養者」として確かな審美眼で収集された膨大なコレクションを5つのテーマ「茶道との出会い」「逸翁の茶懐石」「逸翁と茶友」「逸翁の茶道観」「逸翁の愛した茶道具」にそってオールカラーで紹介。
▶A4判・148頁／定価2,000円 ISBN978-4-7842-1485-3

一千年目の源氏物語

伊井春樹編

シリーズ古典再生①

たんなる古典復興ではなく、それらの作品を現代の眼でもう一度見直して再生することを目指して開催された国文学研究資料館主催シンポジウム「一千年目の源氏物語」、思文閣出版・京都新聞社主催シンポジウム「私の源氏物語」をもとにし、斯界の識者による「源氏物語論」を集約。次の世代へとその価値を継承する。
▶A6判・252頁／定価1,680円 ISBN978-4-7842-1408-2

漱石文学の水脈

坂元昌樹・田中雄次・西槇偉・福澤清編

漱石文学がどのような思想と背景から生み出され、東アジア文化圏においてどのように受け入れられ、どのような影響を与えてきたかを検証する10篇。熊本大学の教員を中心とした共同研究。【内容】I <漱石>への水脈 佐々木英昭／田中雄次／吉田正憲／西川盛雄／金原理 II <漱石>からの水脈 西槇偉／坂元昌樹／福澤清／徳永光展／濱淵園子
▶A6判・280頁／定価2,940円 ISBN978-4-7842-1506-5

夏目漱石における東と西

松村昌家編

大手前大学比較文化研究叢書4

明治の文豪・夏目漱石の小説において、そこに織り込まれた西洋的概念と東洋的概念の葛藤、直接影響を受けた小説との比較、イギリスの事物の受容の様相など、気鋭の研究者たちによる漱石文学論。【内容】小説美学としての<非人情>／『吾輩は猫である』におけるメンコリーと神経衰弱／奇人たちの饗宴／漱石の薔薇戦争 ほか
▶A5判・208頁／定価2,940円 ISBN978-4-7842-1335-1

阪神文化論

川本皓嗣・松村昌家編

大手前大学比較文化研究叢書5

歌枕に詠まれたいにしへの芦屋の浜、歌人や作家に愛され、その作品に影響を与えてきた芦屋・西宮など阪神間の風土、さらに開港早々慌ただしい歴史の舞台ともなった神戸—文学、歴史から阪神文化の神髄に触れる。【内容】歌枕の詩学／松瀬青々論／昭和初期の神戸における青年団運動について／A・B・ミットフォードと神戸事件 ほか
▶A5判・290頁／定価3,360円 ISBN978-4-7842-1398-6

幸田露伴の世界

井波律子・井上章一編

従来、全面的な研究がなされていない幸田露伴について、さまざまな分野の研究者が集まり、小説や評論など文学面はもちろんのこと、都市・遊技・旅行・自然観察・人生論等々の著作を通じて多様な角度から露伴にアプローチする。国際日本文化研究センター（日文研）で行われた共同研究の成果13篇。
▶A5判・318頁／定価5,250円 ISBN978-4-7842-1444-0

※中国文人画家の近代

西槇偉著

豊子愷の西洋美術受容と日本

豊子愷は民国期から人民共和国期まで世相人情を反映する抒情漫画や随筆の名手として身辺雑事から文学・美術・音楽などを題材に軽妙な語り口の散文を遺した。「中国」「日本」「西洋」という三つの視点を設け、豊子愷が日本を通して西洋美術を受容したことの意義を問うと同時に「文化の越境者」彼の本質に迫り、20世紀日中知的交流の軌跡を検証。
▶A5判・384頁／定価5,775円 ISBN4-7842-1230-2

光芒の大正

改造社関係資料研究会編

川内まごころ文学館蔵

山本實彦関係書簡集

大正デモクラシーの幕開けとともに、時代の寵児となった雑誌『改造』を創刊した山本實彦。川内まごころ文学館蔵の山本實彦または改造社宛に届いた書簡のうち、『改造』が最も華々しく光り輝いた大正8年（1919）から昭和5年（1930）までの書簡を解説とともに活字化。収録書簡132通、差出人82名の内訳は小説家が最も多く、学者、思想家など。
▶A5判・290頁／定価5,250円 ISBN978-4-7842-1459-4

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。